

災害時避難行動要支援者への 避難支援等について

令和5年5月14日(日) せとうち防災リーダー フォローアップ研修



瀬戸内市 総務部 危機管理課

要配慮者とは

- ◆災害時に必要な情報を迅速かつ的確に把握し、災害時に安全な場所に避難するなどの一連の行動をとるのに配慮が必要な方を「**要配慮者**」という。

【要配慮者の例】

高齢者、視覚障害者、聴覚・言語障害者、肢体不自由者、内部障害者、知的障害者、発達障害者、精神障害者、難病患者、乳幼児、妊産婦、外国人等、地理に不案内な旅行者など

※「障害者」は「障害者及び障害児」を指す

- ◆要配慮者に対しては、**自主防災組織や福祉関係者など**による支援体制を確立し、**その人の状態に対応したきめ細やかな救援**を行う必要がある。
- ◆災害発生時に、要配慮者に対する情報の伝達や安否確認、安全な場所への避難を支援するには、**地域で生活する要配慮者を事前に把握**しておくことが大切。
- ◆自主防災組織で、支援者の確保や支援方法について事前に話し合ったり、防災訓練に要配慮者の避難支援訓練を取り入れるなど、災害に備えて、**要配慮者を地域ぐるみで支援できる地域づくり**を進めることが重要。



避難行動要支援者名簿とは

要配慮者のうち、特に避難行動等に支援が必要な在宅の方を、「避難行動要支援者」と呼びます。

瀬戸内市では、避難行動要支援者に対して、災害情報の提供や避難等の手助けが地域の中で素早く安全に行われる体制づくりを進めるため、「避難行動要支援者名簿」を作成しています。

瀬戸内市 避難行動要支援者名簿 (例)											名簿情報：令和●年11月1日現在 回答状況：令和○年3月1日現在							
抽出 連番	自治会 名称	住所	方書	氏名	氏名カナ	性別	生年月日	支援を必要とする事由						連絡先			消防団 分団	民生委員区分
								①	②	③	④	⑤	⑥	連絡先①	連絡先②	代理人氏名 (続柄)		
1	○○ (牛窓)	牛窓町○○1番地1		●● ●●	○○ ○○	女	昭和●年●月●日	○						○○-○○○○	090-●●●●-●●●●	○○ ○○ (子)	01牛窓	000●●
2	○○ (牛窓)	牛窓町○○2番地2		■ ■	□ □	男	昭和■年■月■日	○	○					□□-□□□□		□□ □□ (妻)	01牛窓	000●●
3	○○ (牛窓)	牛窓町○○3番地3		▲ ▲	△ △	女	大正▲年▲月▲日	○							090-▲▲▲▲-▲▲▲▲	△△ △△ (甥)	01牛窓	000●●

支援を必要とする事由 ①：要介護度3以上 ②：身体障害者手帳1, 2級(心臓・腎臓機能障害のみを除く) ③：療育手帳A
④：精神障害者保健福祉手帳1, 2級(単身世帯の方) ⑤：難病患者 ⑥：その他

避難行動要支援者名簿の対象者

対象者は**在宅の者**で、次の①～⑥に該当する者(施設入所者は対象外)

- ①要介護認定3以上を受けている者
- ②身体障害者手帳1・2級を所持する身体障害者(心臓・腎臓機能障害を除く)
- ③療育手帳Aを所持する知的障害者
- ④精神障害者保健福祉手帳1・2級を所持する者で単身世帯の者
- ⑤市の生活サービスを受けている難病患者
- ⑥その他、避難支援関係者が避難行動支援の必要を認めた者



【平常時の名簿情報提供の流れ】

対象者に「同意確認書」を送付し、名簿情報提供の意向確認(郵送)



本人または家族等が市に「同意確認書」を提出

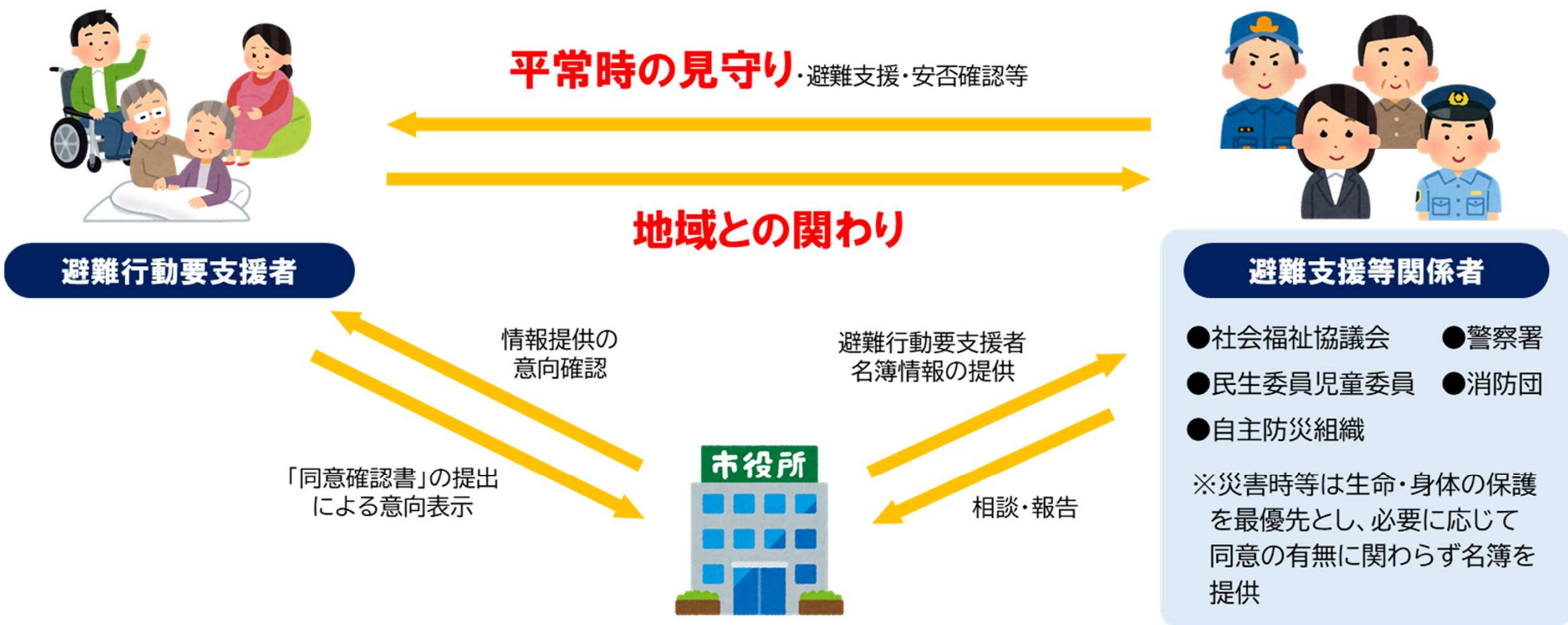


【同意の場合】
避難支援等関係者に事前提供



【不同意の場合】
災害時の安否確認等に活用

避難行動要支援者名簿の活用



留意事項

- 避難支援等関係者自身の安全が前提となるため、名簿情報の提供への同意によって災害時の支援を保証するものではない。
- 名簿情報の提供を受けた者は、名簿に係る個人情報を適切に管理し、支援活動以外の目的で利用してはいけない。

提供する名簿情報

- 住所 ●氏名 ●性別
- 生年月日
- 支援を必要とする事由
- 電話番号(本人・代理人)

避難支援等関係者

- 社会福祉協議会 ●警察署
- 民生委員児童委員 ●消防団
- 自主防災組織

※災害時等は生命・身体の保護を最優先とし、必要に応じて同意の有無に関わらず名簿を提供

避難行動要支援者名簿の活用

①自分自身と家族の安全が最優先

- ◆発災時は、なにより**自分自身と家族の安全確保が最優先**です。地域住民の一人として、近隣住民と声をかけ合いながら**率先避難**を心掛けてください。
- ◆**避難支援や安否確認は、地域の関係者みんなで行いましょう**で、行政委員や民生委員児童委員が全ての避難行動要支援者に対応しようとするべきではありません。災害時には無理のない活動を心掛けてください。

②平常時の関係づくりに名簿を活用しましょう

- ◆災害時に適切な避難支援を行うために、**平常時から対象者や家族との関係づくり**を進めましょう。また、災害時の避難行動等について、対象者自身や家族が考えておくことが重要です。災害への備えの呼びかけも行いましょう。
- ◆災害時に対象者を安全に避難させるためには、近隣の方の協力が不可欠です。**近隣の方との関係づくり**も意識して行いましょう。
- ◆同意確認書を提出しておらず、名簿に載っていない方が地域にいる可能性があるため、可能な範囲で市に同意確認書を提出するように声掛けをお願いします。

近年頻発する豪雨災害における高齢者等への被害の集中

●平成30年7月豪雨

愛媛県、岡山県、広島県の死者数のうち、60歳以上の死者数の割合

→ **約70%** (131人/199人) (高齢者の死者数/全体死者数)

(うち倉敷市真備町における70歳以上の割合 **約80%** (45人/51人))

●令和元年台風第19号

全体の死者数のうち、65歳以上の死者数の割合

→ **約65%** (55人/84人)

●令和2年7月豪雨

全体の死者数のうち、65歳以上の死者数の割合

→ **約79%** (63人/80人)

(うち熊本県 **約85%** (55人/65人))

注:本資料中に記載している死者数等の数値は、2020年12月24日に公表された「令和元年台風第19号等を踏まえた高齢者等の避難のあり方について(最終とりまとめ)」本文中に記載されているものであり、最新値とは異なる可能性があります。

個別避難計画について

個別避難計画は、避難行動要支援者ごとに、**誰と（支援者）・どこへ（避難先）・どのように（避難方法）避難するか**などをあらかじめ定めておくものです。

個別避難計画の作成にあたっては、**行政、自主防災会、民生委員児童委員、福祉・医療・保健の専門職（福祉専門職等）**などの関係者が連携し、**実効性のある計画づくり**に努めることが大切です。



（様式第5号） 取扱注意

避難行動要支援者 個別避難計画 作成日： 年 月 日

ふりがな氏名			
生年月日	T・S・H 年 月 日	年齢	歳
性別	男・女		
住所			
電話番号	F A X		
携帯番号	MAIL		
同居の家族等		<input type="checkbox"/> 日中同居 <input type="checkbox"/> 夜間同居	
緊急時の連絡先①	ふりがな氏名	(関係:)	
	住所		
緊急時の連絡先②	ふりがな氏名	(関係:)	
	住所		
避難支援等実施者①	ふりがな氏名		
	住所		
避難支援等実施者②	ふりがな氏名		
	住所		
定期的にご利用している医療機関や介護・障害福祉事業所の連絡先	名称:		
	名称:		
	名称:		

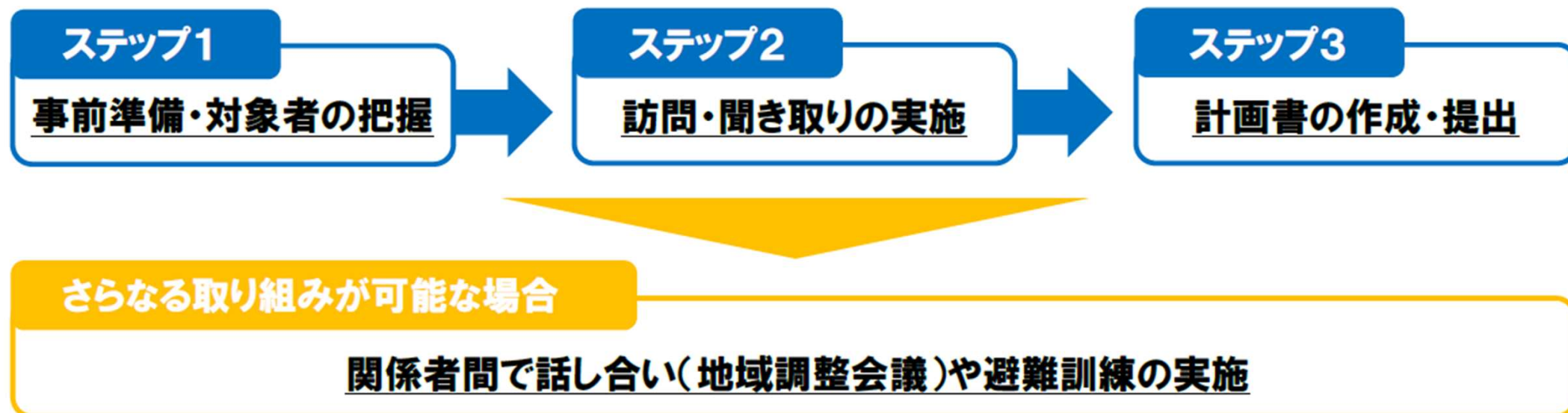
	(あてはまるものすべてに○) <input type="checkbox"/> 介護保険の認定を受けている【要介護状態区分:] <input type="checkbox"/> 手帳所持【障害名: 等級:] <input type="checkbox"/> 難病の特定医療費等の支給を受けている <input type="checkbox"/> 医療機器の装着や使用等をしている【 <input type="checkbox"/> 人工呼吸器 <input type="checkbox"/> 酸素 <input type="checkbox"/> 透析] <input type="checkbox"/> 一人で立つことや歩くことができない <input type="checkbox"/> 音が聞こえない(聞こえにくい) <input type="checkbox"/> 物が見えない(見えにくい) <input type="checkbox"/> 危険なことを判断できない <input type="checkbox"/> その他[]
	避難時に持っていくもの <input type="checkbox"/> 薬、お薬手帳 <input type="checkbox"/> 眼鏡 <input type="checkbox"/> 補聴器 <input type="checkbox"/> 入れ歯 <input type="checkbox"/> 杖 <input type="checkbox"/> 車いす <input type="checkbox"/> シルバーカー <input type="checkbox"/> その他[]
	自宅周辺のハザード <input type="checkbox"/> 洪水【 浸水深: ~ m 】 <input type="checkbox"/> 土砂災害 <input type="checkbox"/> 高潮 <input type="checkbox"/> 地震【 最大震度:] <input type="checkbox"/> 津波【 浸水深: m]
	避難場所① 名称: 住所: 避難場所② 名称: 住所:
	避難支援時・避難所での留意事項
	避難経路等

※本計画は、避難支援等実施者による災害時の避難支援を保証するものではありません。また、避難支援等実施者は、避難支援等について法的な責任や義務を負うものではありません。

個別避難計画作成の流れ

まずは対象者の状況把握を中心に、可能な範囲で個別避難計画作成に取り組みましょう。

また、さらなる取り組みが可能な場合には、関係者間で話し合い（地域調整会議）や避難訓練などを実施し、避難支援体制の強化に努めましょう。



個別避難計画作成の流れ

ステップ1 事前準備・対象者の把握

- ①市と協定を結び、避難行動要支援者名簿の提供を受ける。
- ②役員等で対象者を確認し、計画作成の進め方や役割分担を決める。

*まずは市と協定を結ぶところから始めましょう。

ステップ2 訪問・聞き取りの実施

- ①対象者宅を訪問し、計画作成について説明するとともに、対象者への聞き取りを行う。
- ②本人からの聞き取りが難しい場合は、家族に協力をお願いする。

*一度で済まそうとせず、少しずつ関係づくりを進めていきましょう。

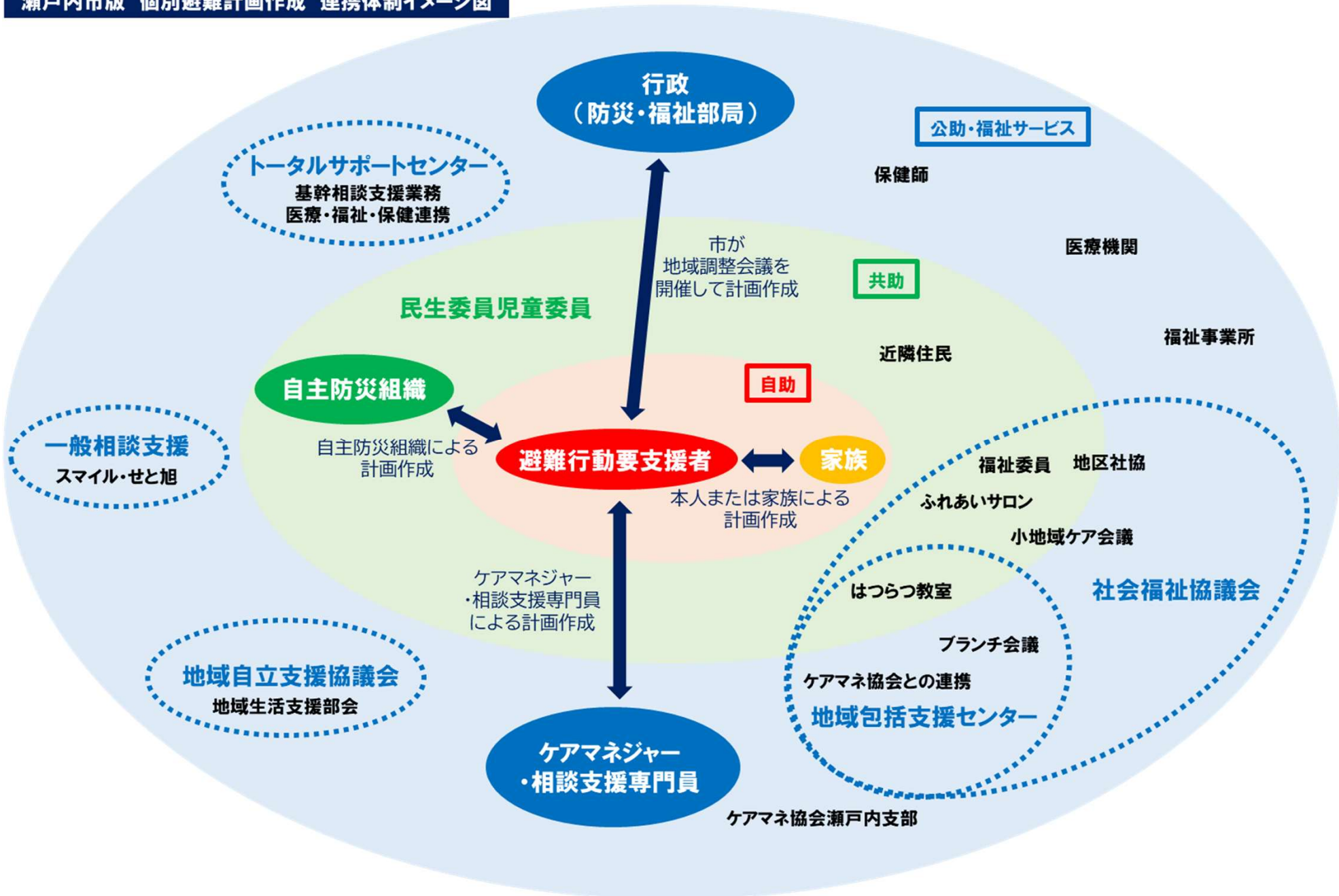
ステップ3 計画書の作成・提出

- ①ステップ2で聞き取った内容をもとに、市の様式を用いて個別避難計画を作成する。
- ②作成した個別避難計画は、本人の同意を得て、副本を関係者間で共有するとともに、原本を危機管理課へ提出する。

*避難支援等実施者の選定にあたっては、特定の方に負担がかかりすぎないように配慮しましょう。

個別避難計画作成 連携体制

瀬戸内市版 個別避難計画作成 連携体制イメージ図



【演習】避難行動要支援者への支援について考える

【避難行動要支援者Aさん】

- ・85歳、女性、要介護3
- ・変形性膝関節症、手助けがないとトイレや入浴、立ち上がりなどが困難。
- ・認知症、物忘れがあり、最近では理解力も低下している。
- ・元幼稚園教諭で、元気なころは婦人会や老人クラブ女性部などで活躍していた。
- ・地域に友人も多く、少し前までは週1回、近所のサロンに通って友人とおしゃべりするのが生きが이었다。
- ・夫は10年前に亡くなっている。
- ・長男(50歳)は、東京の銀行に勤めており、年1、2回は妻や孫と帰省していた。関係は良好だが、コロナの影響もあり、2年以上帰省していない。
- ・長女(48歳)が日常的な介助をしているが、数年前に腰を痛めてしまい、力仕事は難しい。平日10～17時はパートに出ている。婚姻歴はなく、近所付き合いも薄い。
- ・訪問介護が週6日(8～10時)、デイサービスへ週3日(月～土)通っている。
- ・小型の室内犬を飼っている(10歳、メス)

【演習】避難行動要支援者への支援について考える

- ・居住地域は2級河川が近くを流れる田園居住地域。
- ・100年に1回程度の雨で、0.5～3mの浸水予測地域。
- ・過去の水害では床上浸水を経験したことがある。
- ・民生委員の家は隣の町内会で、徒歩15分(1km程度)。
- ・近隣の避難場所へは徒歩10分(800m)で、橋を渡る必要がある。
- ・迂回して大きな橋を渡ることもできるが、距離は倍近くになる。
- ・近所に親せきの家はあるが、同年代は入院したり入所したり、家にいても介護が必要な人ばかり。
- ・隣の家は、核家族で30代夫婦と小学生の子どもが2人いる。
- ・町内会長は、毎年持ち回りで代わるので誰なのかよく分からない。
- ・近年は大きな水害が発生しておらず、いざという時のことはあまり考えていない。
- ・飼っている犬も老犬なので、最後までみんなと一緒に家にいたい。

◎Aさんの暮らしを想像してみましょう

Q.日常生活でどのような困りごとがあるでしょうか？また、どのような気持ちで過ごしているでしょうか？

「防災」を地域コミュニティ活性化のきっかけに

